

平成24年度 学校自己評価システムシート (埼玉平成中学校)

目指す学校像	創設者山口茂先生の唱えた「為すことによって学ぶ」の建学の精神のもと、「創造・自律・親切」を校訓として、心豊かで国際感覚を身につけた人材、また多くの体験を通して、真の学力とたくましさを身につけた生徒を育成することを目標とし、個々の能力を最大限に伸ばす、中高一貫ならではのゆとりある教育機関を目指す。
---------------	--

重点目標	1 考える力、表現できる力を育成する。 2 大学受験に向けた合格力を身に着ける指導。 3 国際社会で活躍するための生きた英語教育の充実。 4 本校の伝統にそった生徒指導の充実。
-------------	---

達成度	
A	ほぼ達成 (8割以上)
B	概ね達成 (6割以上)
C	変化の兆し (4割以上)
D	不十分 (4割未満)

出席者	
学校関係者	3名
事務局(教職員)	5名

学校自己評価							
年度目標				年度評価(3月9日現在)			
番号	現状と課題	評価項目	具体的方策	方策の評価指標	評価項目の達成状況	達成度	次年度への課題と改善策
1	考える力及び表現できる力を指導目標として意識的に前面に出した教育は今まで行って来なかった。各行事での成果をグループ発表させ、さらに深く考え、表現出来る生徒を育成したい。	考える力、表現できる力を育成	<ul style="list-style-type: none"> 生徒たちの知的好奇心を喚起するような授業に努める 教える授業から学びあう授業への転換を図る 日常生活や様々な体験学習中で感じ取ったことを的確な言葉を用いて表現させる 互いの考えを伝えあい、自らの考えや集団の考えを発展させる 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業及び反省会は実施されたか 体験学習の発表は実施されたか 生徒会活動は旺盛か 委員会活動は活発か 	<ul style="list-style-type: none"> 研究授業及び反省会を国語科、社会科、数学科理科、英語科、技術科で実施。 体験学習で、(中1)山と川のフィールドワークでグループ発表。(中2)国内英語合宿終了日に英語で成果発表。 生徒会を中心とした文化祭・体育祭の企画や百人一首大会、昼の放送等積極的に活動した S選抜クラスは年度末に各自決めたテーマで研究発表を実施した。 	B A A A	<ul style="list-style-type: none"> より活発な研究授業の実施。新任の先生がベテラン先生の授業見学を頻繁に行っていたが、すべての先生の授業見学を互いに実施し、具体的方策にある授業が実施されているか検討を行う。 現在、行事や発表は、ある程度形式ができてきたが細かく分析し、さらなる充実を図る。
2	今年度は、中等部と高等部のほぼすべての教育活動が一緒になった初年度である。中高で教科会も統一され、進路指導部も一つとなった。中高の教職員が同じ目線に立っての指導が実現された。共通意識、共通理解のもと大学受験に向けた6年間を考えた無駄のない教育を実施したい。大学進学実績の数値目標を達成したい。	大学受験に合格できる力をつける	<ul style="list-style-type: none"> 全教職員が大学実績を向上させるべく、共通意識を持って取り組む 大学進学実績の数値目標 国公立5名、難関私大10名以上 自習室を充実させ、いつでも生徒の質問に対応できる体制を作る 家庭学習を定着させるべく工夫する 定期的な個別面談(年間5回)の実施 夏期補講をはじめ、長期休業中に学力を向上させるべく工夫する 	<ul style="list-style-type: none"> 大学進学実績数値目標を達成できたか 自習室の利用状況は良いか 個別面談は年間5回出来たか 休業中の学力向上の工夫は出来たか 	<ul style="list-style-type: none"> (大学進学実績) 国公立1名、難関私大19名と国公立の実績は目標に届かなかったが、難関私大は2倍近くの成績を収めた。 自習室は、数学・英語の教師が常駐し質問に対応した。生徒の利用も良かった。 個別面談は各クラス年間5回はほぼ実施した 夏期休業中15日間のサマースクールを実施 また、5日間の国内ミニ留学と休業中も学習習慣を失わないよう工夫した。 	B A A A	<ul style="list-style-type: none"> 業者テストを使った緻密な分析と授業担当と担任間の情報の共有を徹底したい。 個別面談における進路資料の充実を図る。 夏期補講の内容の充実と生徒のニーズに応えられる授業形態の模索。 中学からの学習達成目標の基準の明確化と細やかで丁寧な指導。
3	英語に力を入れたカリキュラムを実施してきた。高校卒業までを見据えた英語力を受験英語のみならず卒業後の国際化社会で活躍できる素地を育みたい。	生きた英語教育の充実	<ul style="list-style-type: none"> 国内英語合宿 オーストラリア研修旅行 国内ミニ留学 基礎英語(S選抜クラス) 	<ul style="list-style-type: none"> 国内英語合宿の成果はあったか オーストラリア研修旅行の成果はあったか 国内ミニ留学の成果はあったか 基礎英語の成果はあったか 	<ul style="list-style-type: none"> 中2での3日間英語漬けの行事を行い、合宿最後のプレゼンは各自当初の目標を達成した 現地の学校訪問でのパディとの一対一の会話やS選抜クラスのメールのやり取りで実践英会話の基礎を身に着けることができた。 在籍者の約三分の一の生徒の参加がありネイティブスピーカー3名の教員と留学生による有意義な授業を実施した。 	A B A	<ul style="list-style-type: none"> 英会話のネイティブスピーカーの先生への補助と指導の徹底。英会話の具体的到達目標に生徒全員達成できるような体制作り。 英語科の教員だけに頼らず学校全体での取り組みとして全教職員の協力体制の構築。
4	穏やかな生徒が多く問題行動も少ない。卒業までにたくましく生きることのできる人間へと成長させたい。まずは基本的な生活習慣の定着を徹底し、部活動で心身ともに鍛えたい。	生徒指導の充実	<ul style="list-style-type: none"> 教職員、生徒による登校指導校門指導の励行 制服をきちんと着こなし、品位のある態度を醸成 文武両道を目指し、学習と部活の両立 	<ul style="list-style-type: none"> 登校指導、校門指導はできたか 制服はきちんと着こなししているか 成績不振者は減ったか 部活の参加率は良いか 	<ul style="list-style-type: none"> 越線線沿線各校の年3回の合同登校指導、また校長をはじめ管理職が毎日校門指導を実施 制服はしっかり着こなしマナーを守る指導を常時実施した。 3教科(国数英)のフォローアップによる成果で成績の底上げがなされた。 運動部、文化部共に出席率は高い。 	A B B A	<ul style="list-style-type: none"> 登校指導、校門指導は継続し本校美点の挨拶運動の徹底を図る。 何時如何なる所でも対応できる公共マナーの教育を徹底させる。

学校関係者評価	
実施日	平成25年3月9日
学校関係者からの意見・要望・評価等	
<ul style="list-style-type: none"> 研究授業、体験学習行事、生徒会活動と先生方の生徒へのきめ細やかな取り組みを今後も継続してほしい。その中で、生徒への評価について等、ほめてさらに伸びるような指導を継続していただきたい。 難関校合格の為に教科書内容のマスターを徹底して欲しい。 生徒の学力に応じた個別の指導をお願いしたい。 各学年の段階での目標を提示し、勉強の面白さを体感させる指導をお願いしたい。 各発表の場でほめる指導をお願いしたい 職業意識を育むキャリア教育をお願いしたい。 国語力をつけさせる読書指導をお願いしたい。 高校2年生で英検準1級合格者が出たようですが自信を持って英語教育の充実を図っていただきたい。 学外でのマナーは良いと思われるが、生徒指導はこれで良しというものはないと思われる。継続して生徒を育てていただきたい。 	